

031

見えない・見えにくい人の視点から
考える防災講座
「備えあいフェスタ」の開催

取組主体

心眼ハート♡あいず

役員数/会員
数

8人/45人

想定災害

風水害、地
震

実施地域

福岡県久留米
市を中心とし
た福岡県全域

様々な立場の人々が互いに学び合い相互理解を深めることを目的とし、視覚障害のある方々の視点を取り入れながら災害に備えるイベントを実施することで、地域コミュニティの連携強化と防災力向上を図っている。

1 取組の概要

- ・主に視覚障害のあるメンバーで構成され、見えない・見えにくい人たちのサポート活動を行う市民団体である「心眼ハート♡あいず」は、視覚障害者の視点を取り入れた防災講座「備えあいフェスタ」を開催している。このイベントでは、防災に関する講座や体験プログラムを通じて、視覚障害の有無にかかわらず参加者同士が互いを理解し、尊重し合える場を創出している。具体的な取組として、防災をテーマにしたワークショップや落語、心肺蘇生法の実習など、参加型のプログラムを用意し、楽しみながら防災について学べる工夫を施している。



「備えあいフェスタ」のチラシ

ハイブリッド開催の様子



救急救命士の動画に音声ガイドをする様子



避難時に使う日用品をペットボトルに詰めた防災ボトル制作の様子

2 取組のきっかけと想い

- ・2020年に発生した福岡県南部豪雨（大牟田、久留米、佐賀など）の被害状況を受け、同団体は、眼鏡店、眼科医、視覚障害のある当事者による団体、九州歩行訓練士会などと共に支援チームを結成し、被災者の状況確認や被災者宅訪問を行った。その際、視覚障害のある方から、「災害時には視覚障害者は正確な情報がリアルタイムでは得られにくく、特に高齢者である場合には、避難がより一層困難である」といった声を得た。
- ・同チームでは当初、「人とつながり、それぞれの命を守りたい」という想いのもと、視覚障害のある当事者が災害に向けた心構えや準備を行えるよう、要支援者名簿への登録を促す活動を行ってきた。しかし、活動を進める中で、視覚障害など周囲からは把握されづらい人々の存在を知ってもらうことが、災害時の共助を促進するきっかけになるのではないかと考えるようになり、共助を重視した活動を始めた。
- ・障害の有無にかかわらず、様々な視点から「もしも」の状況を想定・体験し、相互理解を深めることを目指す考え方「シミュレーション・ブレンド（※）」を独自の理念として掲げ、この理念を広く実践する場として「備えあいフェ

スタ」を企画するに至った。同フェスタの企画・運営に関しては、同団体が 10 年にわたり定期開催してきた防災に関する学習会が基盤となっている。（※）シミュレーション・ブレンド：同団体による造語

3 取組の特徴（差別化した点、地域特性などで工夫した点等）

楽しく学ぶことで主体性を引き出す工夫

- ・防災ボトルづくりや心肺蘇生法の体験、持ち出しリュックの準備、防災落語など参加型のプログラムを用意することで、参加者が主体的に取り組める内容とした。

参加しやすさの追求

- ・講座では、障害などで移動が困難な方も参加し一緒に学べるよう、ハイブリッド形式（現地＋オンライン）を採用した。また、会場はアクセスしやすい場所を選び、視認性を向上させる工夫（モニターを一人一台使用、白黒反転スライド）や手話通訳・要約筆記（必要な場合）などの合理的配慮を行っている。こうした準備により、誰もが参加しやすい環境を整えている。

多様な関係者との連携

- ・視覚障害のある当事者を中心に、市役所（防災対策課・地域福祉課・協働推進課・障害福祉課など）、社会福祉協議会、ボランティア団体、災害支援団体、医療関係者、救急救命士など、多くの関係者と連携した。連携体制の中では、関係者は一定の視覚障害に関する理解や知識はあるものの、視覚障害者がどのような状況で困難を感じるのかなどを分かっていないことが多く、理解してもらうことの難しさに直面した。しかし、関係者が取組に関わる中で少しずつ視覚障害であるがゆえの困りごとなどを理解してもらうことで、相互理解を深めながら取組を進めている。

4 取組の効果

「避難行動要支援者名簿」の登録者数の増加

- ・「備えあいフェスタ」の参加者数は、ハイブリッド開催分も含めて、約 500 人を達成。同フェスタ内にて「避難行動要支援者名簿」の登録の呼びかけを続けた結果、多くの参加者の登録につながった。

参加者・運営者の防災意識の向上

- ・回を重ねるごとに、運営側における企画立案に関わるメンバーも「こういったケースでは、視覚障害があったらどうするのだろうか？」という視点を持つようになった。

周囲の声

- ・「自分が主体的に学び、体験できたことが嬉しかった。救命救急の体験を通じて、自分にもできることがあると認識できた」（イベントに参加した視覚障害のある方）
- ・「視覚障害のある人と一緒に体験したことで、困りごとを理解できた。まちで白杖を持った方に意識を向けるようになった」（イベントに参加した行政関係者）
- ・「障害のある方を手伝うつもりで参加したが、一緒に防災を学ぶことで多くのことを得られた。毎回とても勉強になっている」（イベントに参加した福祉関係者）

担当者の声

- ・誰もが歳を重ねると見え方に不自由さを感じるが増えると思います。自然災害が多発することが予想される中、障害のある方の災害時の被害を最小化するために、普段から地域の関係機関をどう巻き込んでいくかを考えていきたいです。
- ・今後は、これまでの学習や体験を生かし、いざというときの避難行動や避難所での過ごし方を、より多くの人に伝えられるよう周知方法を工夫していきたいと思います。

問合せ先

心眼ハート♡あいず
電話番号：092-710-2273
E-Mail：shinganhearteyes@gmail.com
URL：https://shinganhearteyes.jimdofree.com/

動画

—

サイト URL

